

技術・家庭科（技術分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

5 「生活」とは、人が生きていくために必要である
様々な活動を行うことです。それは、社会の影響を
受け、常に変化するものです。さらに、生活する主
15 体者の思いや欲求によって、変えることができる
ものでもあります。人が自ら生活をよくしていこ
うとする思いは、いつの時代も変わらないもので
しょう。

技術・家庭科は、子どもたちを「生活」の場に誘
う教科であり、「生活」の幅を広げたり、質を高め
たりするための教科であると考えます。「生活の場
15 に誘う」とは、多様な生活場面の中から、子ども
たちが学習するための場面を切り取り、そこへひき
つけることです。その「場」の中で活動すること
を通して、解決していきたい問題を見つけ、自分な
りの考えをもち、互いにかかわらせながら学習を進
20 めていきます。そこで得たものを生活に生かすこ

とで、さらに学ぶ意欲が高まるでしょう。

生活の幅を広げたり、質を高めたりするため
には、自分ではない「他者」の存在が欠かせませ
年代や立場が異なる人々の視点で、生活を見つめ、
25 それらの人々にとってのよりよい生活を自分な
りに考えていくことで、自分の生活にとっても幅が
広がったり、質が高まったりするでしょう。そのよ
うな活動を通して「生活」をとらえ直していくこと
により、子どもたちは**豊かな生活**を自然と求めて
30 いくこととなります。

以上のことにより、技術・家庭科で育みたい人間
像を「**豊かな生活を創る人**」としました。子ども
たちが「誰にとって」という視点を明確にして学び合
うことで、自分や他者にとってのよりよい生活を
35 創造できるようになることを願っています。

2 育みたい人間像に迫るために教科で大切にすべきこと

「ものづくり」は、人類にとって欠かすことはで
40 きません。「ものづくり」の発展が現在の生活を支
えてきたことは周知の事実であり、今後もそれは
途切れることなく継続していくものです。

では、「ものづくり」を行う上で大切にす
る“視点”とは何でしょうか。設計図に沿った正確な製
45 作、素材や構造に関する知識、環境に対する配慮、
効率的で安全な生産方法など、多くの視点を大切
にしなが「ものづくり」は行われています。しか
し、技術分野の授業において「自分以外の人が使用
するものについて考える」という視点を獲得して
50 いくことは、授業者が意図的に設定しない限り、難
しい状況があります。その理由は、授業で行う製作
では、生産者と使用者が同じ人物（自分）である場
合がほとんどだからです。

「豊かな生活を創る人」を育むために、技術分野
55 では「**ものについて語る**」活動を大切にしてい
きます。「ものについて語る」とは、ものを観察したり
操作したりする過程で得られた情報を自分で考察
すること、使用者を想定して、もののあり方を検討
することです。また、ものの特徴や成り立ち、役割
60 などについて仲間と話し合うことも含めます。さ
らに、もの同ものを比較して、その良さや改善点、
類似点を吟味したりすることもあります。ものを

語る文化が醸成されてくると、子どもたちはもの
に対して様々な角度から考えるようになるでしょ
65 う。

ものが溢れる現代だからこそ、使用者のニーズ
に対応したものづくりに価値があると考えます。
そのために「**Enhance（高める）会議**」という製作
者の意図を伝え合ったり、使用者（他者）から改善
70 点を指摘したりする時間を設けます。子どもたち
は、“もの”を自分と異なる視点でとらえた仲間
の考えを知ることによって、“もの”のとらえ方が深ま
っていきます。そして「ものづくり」についてさら
に考えを深めていきます。このような活動により、
75 生産者としての責任をもち、他者からの指摘を真
摯に受け止め、ものづくりに情熱を注ぐ子ども
たちになっていくでしょう。仲間とよりよいものを
創りあげていこうとする姿は、「**豊かな生活を創る
人**」につながると考えます。

このように、ものについて語り合うことは、技術
分野がもつ教科の本質、教科ならではの文化とい
えるものです。他者と学び合い、ものについて考
える経験を積み重ねることで、本当の意味での技術
のすばらしさを実感できる子どもたちになってい
85 くと考えます。